

## 会 議 録

会議名称	令和4年度第2回伊達市史編さん委員会		
議 題	①伊達市史続刊（仮称）構成案について		
開催日時	令和4年9月7日（水）書面会議		
場 所	書面開催		
出席者	書面決議者6名（未決議者0名）		
	所管部課名	総務部総務課	
公開 非公開 の別	<input type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	—
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	—

**【会議録】**

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面により開催いたしました。

**1. 議 事**

①伊達市史続刊（仮称）構成案について

説明：資料のとおり

結果：承認5・保留1

※多くの意見や質問が寄せられたことから構成案は承認とせず、それらを回答する場として改めて市史編さん委員会を開催する。

**2. 意見等**

別紙「意見等」のとおり

【資料1】伊達市史続刊（仮称）構成案について

カラーグラビア（16ページ）	
（本文合計 1060ページ）	
<b>第1編 自然環境編（140ページ）</b>	
第1章 伊達市の地形・地質・土壌（35ページ）	
第1節 伊達市の地形・地質・土壌	
第2節 伊達市・大滝区（旧大滝村）の地形・地質・土壌	
第2章 伊達市と大滝区の気象（15ページ）	
第3章 伊達市と大滝区の植物（30ページ）	
第4章 伊達市と大滝区の動物（30ページ）	
第5章 伊達市の地名（30ページ）	
第1節 伊達市の地名	
第2節 大滝区の地名	
(1) 開拓に伴う地名	
(2) アイヌ語地名	
第3節 伊達市のアイヌ語地名	
<b>第2編 伊達市域の歴史（220ページ）</b>	
(1) 前近代の東蝦夷地・有珠地方（120ページ）	
第1章 先史時代からアイヌ文化の成立期まで（60ページ）	
第2章 中・近世の東蝦夷地と伊達地方—有珠地区を中心に（15ページ）	
第3章 シャクシャインの戦いと道東地域（15ページ）	
第4章 松前藩の統治体制と有珠場所（15ページ）	
第5章 幕領期の東蝦夷地・伊達地方（15ページ）	
(2) 伊達市域の発展（100ページ）	
第1章 伊達市域のあゆみ（15ページ）	
第2章 明治初期の伊達邦成主従の集団移住（15ページ）	
第3章 明治維新から3県時代（15ページ）	
第4章 北海道庁時代（15ページ）	
第5章 大正期から昭和期・平成期まで（20ページ）	
(1) 大正期	
(2) 昭和期	
(3) 平成期	
第6章 伊達市と大滝村の合併問題（20ページ）	
(1) 伊達市・壮瞥町・大滝村の3市町村の合併構想	
(2) 壮瞥町の脱落	
(3) 新・伊達市の設立—伊達市と大滝村の合併	
<b>第3編 行政編（150ページ）</b>	
第1章 平成から令和期までの伊達市（概説）（30ページ）	
第2章 総合計画の策定と推進（30ページ）	
第3章 市民自治の推進（30ページ）	
第4章 伊達市の人口と世帯数の推移（30ページ）	
第5章 伊達市の財政（30ページ）	
<b>第4編 伊達市の産業と経済（120ページ）</b>	
第1章 農業と林業（50ページ）	
(1) 農業	
(2) 林業	
第2章 水産業（10ページ）	
第3章 商業と工業（20ページ）	
第4章 観光（20ページ）	
第5章 大滝区の産業（伊達市と合併以前）（20ページ）	
<b>第5編 厚生（80ページ）</b>	
第1章 福祉・医療・公衆衛生	
第2章 社会保障	
<b>第6編 生活環境（160ページ）</b>	
第1章 都市計画と土地利用の推移（20ページ）	
第2章 上下水道と住宅政策（20ページ）	
第3章 公園整備と緑化の推進（20ページ）	
第4章 道路と河川の整備（20ページ）	
第5章 運輸と通信（20ページ）	
第6章 防災と防犯（40ページ）	
第7章 大滝区的生活環境—伊達市と合併後の変化（20ページ）	
<b>第7編 教育と文化（150ページ）</b>	
第1章 学校教育（30ページ）	
第2章 社会教育（30ページ）	
第3章 文化活動（30ページ）	
第4章 伊達市の宗教・まつり・イベント（40ページ）	
(1) 伊達市の宗教	
(2) 伊達市の祭り	
(3) 伊達市のイベント	
第5章 大滝区の教育と文化（20ページ）	
<b>資料編（40ページ）</b>	
(1) 伊達市総合年表	
(2) 行政関係資料（平成6年以降の資料とする）	
① 伊達市と大滝村の合併関係資料	・合併協議会関係資料の抜粋など
② 新市建設計画	・「伊達市第2次総合計画」や「伊達市再生・発展まちづくりグランドデザイン」、その他関連する計画・構想に基づいた事業計画
	・これまでの実施状況を基本にしながら、市の財政状況を踏まえて、財源となる合併特例債などの活用を図りながら、社会生活基盤の整備を推進
(3) 伊達市の文化財	
(4) 歴代の首長・議長・議員	
(5) 名誉市民	

## 【資料1】伊達市史続刊（仮称）構成案について（説明資料）

### 第1編 自然環境編（140 ページ）

「伊達市史」「大滝村史」「大滝村史続刊」の内容に加え、最新の成果を取り入れます。  
また、編さん委員会での要望を踏まえ「アイヌ語地名」の項目を加えました。

### 第2編 伊達市域の歴史（220 ページ）

伊達市と大滝区の歴史について「伊達市史」「大滝村史」「大滝村史続刊」の内容に加え、最新の成果を取り入れます。

- （1）前近代の東蝦夷地・有珠地方（先史時代～）
- （2）伊達市域の発展（明治時代～平成）

### 第3編 行政編（150 ページ）

「伊達市史」が刊行された平成6年以降から続刊が刊行される直近までの伊達市と大滝区の行政について最新の成果を取り入れます。

### 第4編 伊達市の産業と経済（120 ページ）

### 第5編 厚生（80 ページ）

### 第6編 生活環境（160 ページ）

### 第7編 教育と文化（150 ページ）

各分野における「伊達市史」「大滝村史」「大滝村史続刊」の内容に加え、最新の成果を取り入れます。

### 資料編（40 ページ）

年表のほか、「伊達市の文化財」「歴代の首長・議長・議員」「名誉市民」等を資料編として記述します。

### －備考－

今回の編さん委員会（書面会議）によって承認された構成案を基に執筆等が進められていきますが、執筆の過程で項目の追加や変更もありますので、予めご了承ください。

また、執筆予定者については若干の担当の移動や新しい執筆者を追加する場合がありますので、この点も予めご了承ください。

■寄せられたご意見・ご質問等

No.	ご意見・ご質問等
1	有珠山の活動については、第1編第1章で述べられると思うが、近年の活動史と噴火災害についての最新の情報を盛り込んでほしい。
2	第6編第6章「防災と防犯」の中に噴火、地震、津波、洪水等（ハザードマップを含む）も含まれると思うが、防犯と同一章はなじまない気がする。
3	第2編（2）第6章（2）「壮瞥町の”脱落”」は”脱退”もしくは”辞退”とすべきかと思う。
4	第2編（2）第2章「明治初期からの伊達邦成主従の集団移住」を「明治初期からの伊達邦成主従と柴田藩の集団移住」へ変更した方がよいのではないかと。 明治3年から始まった仙台藩の移住は、明治14年までの10年間に、 移住人数 亙理藩 2,648人、柴田藩 123人
5	同章に「明治十二傑に選ばれる」を追加できないか。 侯爵 伊藤博文（政治家） 医学博士 佐藤 進（医師） 文学博士 加藤弘之（文学者） 釋雲照律師（宗教家） 橋本雅邦（美術家） 侯爵 西郷従道（軍人） 法学博士 鳩山和夫（法律家） 男爵 伊達邦成（農業家） 福沢諭吉（教育家） 古川市兵衛（工業家） 理学博士 伊藤圭介（化学家） 渋沢栄一（商業家）
6	第2編（2）第6章に「伊達市の名前について」を明記してほしい。 「既存の市の名称と同一となり、または類似することとないよう十分配慮する・・・」（1970年3月12日__自治省（現総務省）事務次官通知）とありながら、2006年に福島県の合併した市に名前を認めた経緯を明記してほしい。日本全国市数約800の内1970年以降、伊達市のみが同一名称である。
7	大滝区は合併後16年を経過し、第3編（総合計画、自治等）では一体的に記述されており、第4編以降も同様でよいのではないかと。他の委員の意見を伺いたい。合併以前は残して記述願いたい。
8	構成案について「説明資料」が1枚付与されているが、この程度の内容でどう表決せよというのか。
9	委員会の初会合において市長から、多くの市民に触れ読んでもらえる内容・構成を望む旨の要望があったがそれがどこに反映されているのか。
10	前回の会議において、今後は月一回程度の委員会審議を継続して委員からの要望を聞きたいとの言はどうなったのか。何もかもコロナのせいにせず、イベントや講演会等の不特定多数の来場や飲食などと違い少数の会議は感染対策を講じることにより開催可能と考える。
11	前回の会議で市域の各地区の独自の歴史的な歩みを記載してほしい旨発言したが、それについての記載がない。
12	執筆者の選定基準や略歴について（本当にこのエリアを知っているのか疑問）
13	第2編第3章はなぜ「道東」にページを割くのか。
14	「第2編第3章」の「なぜ道東にページを割くのか？」に関連しているが、今回のページ配分の意図を知りたい。これまでの市史（町史）の再編集ではないと当初聞いていたが、現在の礎を築いたのは紛れもない亙理伊達家中の開拓によるものである。だが、一番開拓に苦勞と試行錯誤があった明治時代の話が、現在の伊達市史のページ数からだいぶカットされ、「前近代」の「シャクシャインの戦いと道東地域」と同じページ数になっているのはなぜか。